

第10回 レポートの書き方 (2)

「基礎ゼミ」では、その総仕上げとして、レポート作成とその発表に取り組みます。ゼミのスケジュールは、次のとおりです。実際のレポート作成や発表の準備は、授業外時間に取り組んでもらいます。

第11回 (2015-07-01)	アウトライン（骨組み）を考える、必要な資料を収集・整理する	
第12回 (2015-07-08)	レポートを作成する	
第13回 (2015-07-15)	レポート（下書き）を提出して添削を受ける	プレゼンテーションを作成する
第14回 (2015-07-22)	レポートを修正する	プレゼンテーションを練習する
第15回 (2015-07-29)	最終レポートを提出する	本番のプレゼンテーションをして、相互評価する

【前回の復習】自分の考えをまとめて相手に伝える

「考えが伝わる文章」の構成

伝えたいことを、相手に確実に伝える文章にするために、次の構成でまとめてみましょう。

1. 問題：ひとつの問題を示して問題意識を共有する
2. 結論：相手を一つの結論へ導く
3. 理由：結論にいたる筋道を相手に理解してもらう
4. 理由を支える証拠：相手に理由を納得させる根拠を示す
5. 反論への備え：反対意見を想定してそれに対する再反論を示す
6. 結論の確認：全体をまとめる

トゥールミンの三角ロジック

イギリスの哲学者のトゥールミン（Stephen Toulmin）による、自分の主張を論証する論法（ロジック）である、三角ロジックも利用してみましょう。

- 主張(Claim)
 - 例) 暑いときはクーラーを使う方がいい
- データ(Data)：主張を支える情報(事実、数値データ、書籍・文献など)
 - 例) 室温が34度である
- ワラント(Warrant)：主張とデータをつないだり、主張とデータのギャップを埋める論拠
 - 例) クーラーを使えば室温は下がる、室温が下がると快適に過ごせる

また、主張とその三角ロジックをより強いものにするために、反対の方法についても知っておきましょう。

- 反駁(Rebuttal)：データやワラントに反対する
- 質疑(Question)：データやワラントに疑問を提示する
- 反論(Counter argument)：別の三角ロジックを立てる

「考えが伝わる文章」の構成と対比してみましょう。

「考えが伝わる文章」の構成	トゥールミンの三角ロジック
問題、結論	主張
理由	ワラント
理由を支える証拠	データ、ワラント
反論への備え	反駁・質疑・反論、データ・ワラント

レポートのテーマを検討する

テーマを決める方策

1. 「よくわからない」ような言葉が、テーマの有力候補
 - 「興味があるだけ」ネタでは、思い込みがあったり、つまらないテーマになりがち
2. 「問い」をたてる
 - 扱うテーマの焦点をできるだけ絞り込み、表題だけで主張や内容が伝わる、具体的な言葉を考える
 - 「～について」は駄目（「自分の主張＝テーマへの問いとその答え」になっていない）
 - 扱う問いは適切に（壮大すぎる問題、二者択一的な問題、専門的すぎる問題は避ける）
3. テーマは絞り込んでいく
 - 基本的情報（背景、キーワード）→＜社会的な状況、自分の興味・関心＞→明らかにしたい課題（具体的なトピック）

【復習】アイデアを広げてまとめる

たくさんのアイデア（**発想**）や考えを広げたり（**発散**）、引き出したアイデアを整理したり系統だててまとめたりする（**収束**）、発想を支援する方法を実際にやってみましょう。

【発散】ブレインストーミング（ブレスト）

引き出されるアイデアの「質」よりも「量」に重点をおいて、短時間で、場合によっては多人数でアイデアを引き出す手法を、ブレインストーミングといいます。

ポイントは、「質より量」「突飛さを歓迎」「ネガティブな判断はあとで」「他の人に便乗」などがあります。

1. 与えられたテーマについて思いついたことを、カードや大型のポストイットに、1枚につき1件書く
2. 全員のカードやポストイットを、壁や模造紙などに張って、簡単に説明する
3. 説明に対してはポジティブに反応し、反対意見がある場合は新しいアイデアとして提案する
4. 他のひとの意見やアイデアを参考にして、新しいアイデアを出してもよい

【収束】アイデアを整理してまとめる（KJ法、親和法）

引き出したアイデアは玉石混淆の状態です。そのたくさんのアイデアを整理して、アイデア間の隠れた共通の概念や構造をあきらかにするのが、「**KJ法**」です。（川喜田二郎「発想法—創造性開発のために」中公新書、1967）

1. ブレストなどで引き出したアイデアを一覧できるようにする
2. アイデアの意味や特徴を確認しながら、似ているものを集める
3. 集められたカードやポストイットのグループに、名前を付ける
4. グループに分けたアイデアを参考に、グループごとや全体について、最初からの作業を何回か繰り返す

参考文献

- ・ 向後千春「スタディスキル[2014年度版]」、早稲田大学人間科学学術院向後研究室 (2014.03)
- ・ 森時彦, ファシリテーターの道具研究会「ファシリテーターの道具箱」, ダイアモンド社 (2008.03).
- ・ 石井力重「アイデア・スイッチ」, 日本実業出版社 (2009.07).
- ・ 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- ・ 学習技術研究会編著「知へのステップ 第4版」, くろしお出版 (2015.04)
- ・ 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナビゲーター」, くろしお出版 (2007.04)